

教育長定例記者会見 会見録

日時：令和7年5月13日（火） 13時30分～

場所：教育委員室

発表項目

- ・ 学校防災ボランティア事業の参加生徒を募集します
- ・ 令和7年度不登校の子どもの保護者相談会を開催します
- ・ DXハイスクールの採択校（四日市農芸高等学校）が、最先端の技術を活用した学習活動を公開します

質疑事項

- ・ 学校防災ボランティア事業の参加生徒を募集します
- ・ 令和7年度不登校の子どもの保護者相談会を開催します
- ・ DXハイスクールの採択校（四日市農芸高等学校）が、最先端の技術を活用した学習活動を公開します
- ・ 立川市の小学校における暴行事件について
- ・ 大阪・関西万博への社会見学について
- ・ 教員採用試験の対応状況について

発表項目

○ 学校防災ボランティア事業の参加生徒を募集します

県教育委員会では、若き防災リーダーを育成するため、能登半島地震で被災した石川県能登地方にて、ボランティア活動による現地支援などを行う学校防災ボランティア事業の参加生徒を募集いたします。この事業は、配付資料の1 本事業の趣旨にもありますように、近い将来南海トラフ地震の発生が危惧される三重県ですので、大規模災害の発生時にみずから行動できる防災人材の育成を図ろうと実施するものであります。事業概要は2のところにありますように、①の事前学習会、②のボランティア活動、③の事後学習会・成果報告会の3段階で行います。メインは②のボランティア活動で、行き先は長い間、東日本大震災の被災地だったのですけれども、昨年度から、能登半島に変更しておりまして、能登に行くのは今回が2回目になります。貸切バスによる2泊3日の行程で、ボランティア活動の内容は今のところ未定です。その時点の現地のニーズに応じまして、安全面に配慮のうえ決定することとしています。ちなみに、昨年度のボランティア活動は、仮設住宅での足浴ボランティアでした。なお、昨年度からの変更点は、生徒の負担感も考慮いたしまして、①の事前学習会を、昨年度の熊野市での1泊2日の日程から、津市内の日帰り開催に変更しています。それから③の事後学習会・成果報告会は、来年2月に津市内で行う予定です。それから、3

の参加費用については、全日程の昼食代など、参加者の自己負担となるものがありますので、ご注意ください。募集対象となるのは、県内に所在地がある高校、または特別支援学校高等部の生徒 30 名程度としています。

○ 令和 7 年度不登校の子どもの保護者相談会を開催します

県教育委員会では、子どもが学校に行きづらいと感じていることに不安を抱えている保護者に対して必要な情報を届け、保護者同士の交流や、専門機関への相談ができる機会を提供する、不登校の子どもの保護者相談会を全 9 回開催いたします。会場と日程は、配付資料のとおりです。それから当日の内容につきましては資料の 2 をご覧いただきますと、まず（１）として講演会があります。それから裏面にいきまして（２）の保護者交流会と（３）の保護者相談会を予定しています。この講演会、交流会、相談会という流れは例年どおりですが、今年度は、この講演会の中身に少し変化を加えています。昨年度の講演会では、不登校の経験者やその保護者、あるいは支援者の方から、ご自身の経験から当時の思いなどを聞かせていただきましたけれども、本年度は、それに加えて、心理の専門家でもあります皇學館大学の渡邊教授から、不登校の子どもの心の状態や接し方についてお話をいただく機会を持ちます。不登校の理由や要因は一人ひとり違いますので、さまざまな立場の方からお話を聞かせていただくことで、今までとは別の視点に気づくきっかけになればと考えています。なお、この保護者相談会に参加するには事前申込が必要です、ご注意ください。あと周辺情報をいくつかお話しさせていただきますと、この取組は今年度が 5 年目になるものです。昨年度は 8 回開催しまして、150 人の参加がありました。大体 1 回当たり 20 名弱の参加ということになろうかと思います。参加者からは非常に好評でありまして、客観的に考えることができ、よい機会になったとか、専門家に相談でき少し先が見えてほしかったとか、いろんな話ができよかった、温かい気持ちになったなどの声が届いています。本年度もぜひ気軽に参加していただければと思っています。

○ DXハイスクールの採択校（四日市農芸高等学校）が、最先端の技術を活用した学習活動を公開します

本県では、令和 6 年度に文部科学省の高等学校DX加速化推進事業、これをDXハイスクールと呼んでいますけれども、これに採択された県立高校 13 校にて、ICTを活用した探究的な学びを推進しております。今年度新たに 5 校が採択されまして、実施校は 18 校に拡大しました。そしてこのたび、この採択校の 1 つであります、四日市農芸高校にて、この事業で整備した先端機器を用いて学習活動を行いますので、その一部を公開させていただきます。配付資料の 1 に、DXハイスクールの概要について記載しています。（１）の目的のところにありますように、この事業は、高校段階におけるデジタル分野を支える人材育成を強化することを目的としたものです。数学等の教育を重視するカリキュラムや、ICTを活用した文理横断的・探求的な学びを推進する学校に対しまして、取組に必要な環境整備の経

費を国が支援するというスキームになっています。予算は全額国費で採択校は資料のとおりです。1校当たり大体500万円から1,000万円程度の予算がつきます。学習活動の公開を行いますのは四日市農芸高校で、農業科学科および環境造園科の2年生です。学習内容はトラクタと測量用ドローンの自動運転について学ぶものです。日時は5月26日、雨天中止とします。なお今回の事業公開の対象としていますのは、報道関係者のみです。取材をご希望される場合は、事前に学校に連絡いただければと思っています。

もう少しだけ詳しい内容を、高校教育課から画面にて説明させていただきます。

(高校教育課) 5月26日四日市農芸高校におきまして、まず、このドローンを利用して自動飛行する設定を行い、実際に飛行させて、その原理、仕組みを学習します。このドローンは可視光線の他に、赤外線などの目に見えない波長の光も可視化できるカメラを装備しておりまして、この波長の反射率で植物の生育の善し悪しを判断する手法を用いまして、今年度からは、稲の生育調査を行っていく計画です。そして、トラクタの自動運転についても学びます。これは通常のトラクタに後付けで自動運転機能を有するハンドルを装着しまして、このがたがたするような畑の中でも、ハンドルを手放しの状態で直進して、耕してくれるものになっております。このような学習活動をとおして、DXスマート農業に関わる知識技術の習得、興味関心の醸成を図ってまいります。

(教育長) ぜひ積極的に取材いただければと思います。

発表項目に関する質疑

○ 学校防災ボランティア事業の参加生徒を募集します

(質) 防災ボランティアの募集の件で、昨年度の参加人数と応募人数を教えてください。

(答) 参加人数は34名です。

(答：教育総務課) 応募人数は60名です。

(質) 参加人数のところで、これ高校1年生から高校3年生までそれぞれ申し込めますか。

(答) そうですね。高校および特別支援学校高等部の生徒を募集しています。

(質) これ他県の実施状況はいかがですか。岐阜県とか愛知県とか。

(答：教育総務課) 兵庫県立舞子高校が行っています。静岡県でも、県内の学校を集めて行っています。ボランティアはやっていないですけども、視察をしていると聞いています。

(質) 改めてねらい、期待することをお願いします。

(答) やはり、南海トラフ地震の発生確率が引き上げられたということもあって、近い将来、そういうことが起こるかもしれない三重県において、若い防災人材を育成していくというのは大変重要なことだと思っています。私も自治会の役員をしていますけれども、地域の中でも、やはり若い力というのが不足しているなという声もありますので、しっかり、地域社会に貢献できる防災人材を育成していくという視点で取り組んでいきたいというふうに思います。

(質) 昨年度の具体的なボランティア活動の内容をもう少し詳しく。

(答) メインは足浴です。仮設住宅において、住民の方に足浴のボランティアをしました。

湯に足をつけていただいて、マッサージをするのですけれども、それをしながら、いろいろ話をして、色んな現地の話を聞くことができたという声が生徒から届いていますし、大変有意義だったと思っています。お茶会もしたと聞いています。現地のボランティアのニーズというのは刻一刻と変わってきますので、今回行くのは11月ですけれども、その時に一番求められているものは何か、しかも安全性に配慮して、一番良いものは何かということを考えていきたいと思っています。それにしても足浴のボランティアというのは、住民とコミュニケーションもとれるので、1つの有力な候補だと思っています。

(質) あとは食事であるとか、参加者が負担しなければならないものは他に何ですか。

(答) 食事代と、当日の集合までの旅費です。あと、事前学習会等の集合場所までの旅費です。

(質) これは公費で負担するなどは。家庭の経済状況もさまざまであるし、また、県内といえども、住んでいるエリアが皆さん違うわけですから、負担もそれ相応のものになる可能性がありますよね。

(答) 昨年もそういう指摘を受けて我々も検討しているのですが、昼食代というのは、これに参加しなくても、普通はかかるものですので、大きな負担にはならないのかなと思っています。あと、事前学習会は昨年熊野に1泊2日でしたけれども、これを津で日帰り開催したというのも一定ご負担を考慮したものになります。予算が結構限られることもあり、参加人数のこともふまえて、集合場所への旅費は、受益者負担でもいいのかなと思っていますのでございます。

(質) 南部での開催が移動の負担になるので、津でやるという、では今度南部の方はどうなるのかという話になりますね。

(答) 1泊2日ということで宿泊代が伴っていましたので、そこが非常に大きいのかなと思います。おっしゃることはよくわかります。

(質) 3日目の学校訪問ですけれども、これは例えば具体的に小学校とか中学校とかの学校があつて、そこで児童とか生徒さんの話を聞くような感じなのでしょうか。

(答) 具体的な中身はこれからまた詰めていきますけれども、当日学校に行つて、一定の対応を輪島市がしていただけるようです。

(答 教育総務課) 輪島市内の門前地域内の学校ということで今調整している最中です。

(答) 輪島市と強い結びつきができていまして、昨年、県の教育委員会が研修したおりに、輪島市の教育長がわざわざ講師で三重県に直接来ていただいたりしていますので、今回我々が行くときにも対応していただけると聞いています。

○ 令和7年度不登校の子どもの保護者相談会を開催します

(質) 発表項目 2 つ目の、不登校子どもの保護者相談会についてですが、対象は小中高生のお子さんを持つ親御さんが対象ですか。

(答) 不登校に悩みを持っておられる、小中高校と特別支援学校の保護者の皆さんということになります。

(質) わかりました。お子さんが参加することもできるのですか。保護者だけ参加ですか。

(答 生徒指導課) 基本的には保護者の方のみで、小さいお子さんがおられる場合は一緒に来ていただいていることもあります。

(答) 原則保護者ですね。

(質) 講師の方は、渡邊さんが初めて。

(答) そうですね。

(質) それ以外の方は、昨年から、何度かやっていたいている。

(答 生徒指導課) 皆さん引き続きです。

○ DXハイスクールの採択校(四日市農芸高等学校)が、最先端の技術を活用した学習活動を公開します

(質) 発表項目 3 の四日市農芸高校の学習活動公開の件で、トラクタや測量用ドローンというのは、この学校が開発したものではなく、既製品ですか。

(答) 開発したものではなく、既製品です。今回のDXハイスクールの事業で整備したものです。

(質) どのものか、具体的な会社名はわかりますか。

(答 高校教育課) ドローンはMavic(メーカーはDJI)で、トラクタはクボタの関係会社の製品です。

その他の項目に関する質疑

○ 立川市の小学校における暴行事件について

(質) 先週、東京都立川市の小学校で、男2人が暴れた事件がありましたが、それを受けて県教委から、県内の学校に対して何か通知等を発出していますか。

(答) 今のところ、文部科学省から特に通知も出ておりませんので、動いてはおりません。我々としては、いわゆるカスタマーハラスメント的な事象の非常に深刻なケースと受け止めておりまして、不当要求行為対策要綱というのも三重県では示されておりますので、そういったものも普段から県立学校に周知をしていて、その責任者に事務長がなっているという状況で、一定の体制はできていますので、今のところは、そのような形で取り組んでいます。

(質) 長崎県教委は、県内の公立学校に、安全対策や日ごろの備えを確認するよう、今回の事件を受けて取り組んだようですが、三重県教委は特に取り組まれていないですか。

(答) 今のところはそうです。今後、もう少し考えていきます。

○ 大阪・関西万博への社会見学について

(質) 万博が開幕して、大体1か月ぐらいになりましたけれども、先月の会見のとき、一見知事の方から県内の小中高すべての学校の11%が万博に行くと言っているとのこと、ちょっと少ないのかなと思っていたのですが、気運が変わってきたところもあると思うのですが、その後何か方針転換されて、万博を訪れる予定をしているとか、そういったお話は聞いていますか。

(答) 確か600数十校の中で70数校が行く予定で、10数校が検討中ということだったと思いますけれども、私どもとしては、特に行ってくださいとか、学校に呼びかけているような動きはありません。学校が独自に考えて動く可能性はありますけれども、我々としては、呼びかけていません。そもそも、こういう社会見学や修学旅行の行き先というのは、各学校での判断となっておりますので、特段の動きはしていないということになります。

(質) ありがとうございます。小中学校の児童生徒が、万博を訪れて色々な文化に触れる有意義な機会になるのではないかなと私は思うのですが、教育長ご自身のお考えはいかがですか。

(答) 私のプライベートな考えを申し上げますけれども、私は1970年の大阪万博のときに小学校4年生でした。初めて行った社会見学が大阪万博で、非常に素晴らしかったという印象があって、小中学校の時に、世界の情報が集まるようなところへ行って体験をしてくるというのは、子どもたちにとってはものすごく重要な機会になると思っています。私自身は、ぜひ行ってほしいなと思っています。これは個人的な意見です。

○ 教員採用試験の対応状況について

(質) 教員のなり手不足が課題になっていて、他県では採用試験を前倒しする動きもありますけれども、改めて三重県のスタンスを教えてください。

(答) 教員不足への対応は、できることは何でもやるというスタンスで進めています。試験の1か月前倒しの話は、昨年度に文部科学省から示唆されまして、昨年度実施した教員採用試験については、それまでよりも1か月前倒ししました。文科省からはさらに1か月前倒しというような話もあるのですが、今のところ検討中です。各県ではひょっとしたら実施しているところもあるかもしれないですが、三重県では今のところ、さらに1か月の前倒しはしていません。あと、例えば大学3年生から受験できるようにするという取組も昨年度からしておりまして、小学校教諭だけですけれども、大学3年生から受験できるようにしました。あと、受験者の負担をなるべく減らそうということで、1次試験の免除の要件を緩和しておりまして、前年度1次試験に受かった方は、翌年度は免除とかですね、色々なパターンの免除要件を打ち出しているということで、受験者の負担も減らし、できるだけ受験者の確保に努めていくということをしています。

(質) 今年の採用試験の志願状況というのは。

(答) これは、今ちょうど取りまとめているところで、次の教育委員会定例会に報告する予定で進めています。そのため、今ここでは申し上げられません。

以上、13時56分終了